2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月13日

上 場 会 社 名　　ネクストウェア株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　4814　　URL　https://www.nextware.co.jp
代　　表　　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）　豊田　崇克
問合せ先責任者　（役職名）取締役執行役員 管理部長　（氏名）　渡邉　博和　（TEL）06-6281-9866

半期報告書提出予定日　　2026年11月16日　　配当支払開始予定日　　―
決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	1,359	0.4	△114	―	△110	―	△115	―
2026年３月期中間期	1,353	△4.9	△112	―	△110	―	△110	―

（注）包括利益　2027年３月期中間期　△115百万円（　―%）　2026年３月期中間期　△110百万円（　―%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	△9.08	―
2026年３月期中間期	△8.67	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	930	644	69.3
2026年３月期	1,047	760	72.6

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　644百万円　2026年３月期　760百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2027年３月期	―	0.00			
2027年３月期(予想)			―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,300	14.8	50	―	50	―	30	―	2.36

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　　―社（社名）　　、除外　　―社（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	13,015,222株	2026年３月期	13,015,222株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	308,719株	2026年３月期	308,719株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	12,706,503株	2026年３月期中間期	12,706,503株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．当中間決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調が続きました。一方で、中東情勢の動向等により、先行きは引き続き不透明な状況にあります。

当社グループが所属する情報サービス産業におきましては、企業の競争力強化に向けたDX（デジタルトランスフォーメーション）関連需要が引き続き堅調に推移するとともに、AIを活用したAX（AIトランスフォーメーション）への関心が高まり、業務プロセスへのAI実装が広がりつつあります。一方で、クラウド利用の拡大やAI活用の進展に伴い、IT基盤の再構築、情報管理及びガバナンスへの対応に加え、未承認のAI利用（いわゆるシャドーAI）やランサムウェア攻撃などのセキュリティリスクへの備えも重要性を増しております。

このような環境のもと、当社グループでは、ソリューション事業において、デジタル社会の進展に対応し、DX・AX領域における中長期的な成長を見据えた戦略的投資を継続するとともに、AIを活用した新たなソリューションの開発・提供に注力しております。エンターテインメント事業においては、株式会社OSK日本歌劇団のブランド力を活かし、全国公演の拡充やコンテンツの二次利用の強化を通じて、安定的な収益基盤の確立を目指しております。

これらの取り組みにより、連結売上高は前年同期を上回りました。損益面では、ソリューション事業におけるリソースシフトにより収益性が改善し、売上総利益は前年同期に比べ増加しました。一方、エンターテインメント事業における運営費用の増加により、営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する中間純損失は、いずれも前年同期と概ね同水準となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は1,359百万円（前年同中間期比0.4%増）、営業損失は114百万円（前年同中間期は112百万円の損失）、経常損失は110百万円（前年同中間期は110百万円の損失）、親会社株主に帰属する中間純損失は115百万円（前年同中間期は110百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①　ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、企業におけるクラウド利用の拡大やAI技術の急速な進展を背景に、顧客のニーズが、単なるシステム開発・実装から、現場課題の発見、業務プロセスの変革及びAIを活用した価値創出へと高度化・多様化しております。

一方、AIやクラウドサービスの利用拡大に伴い、シャドーAIへの対応、ランサムウェア攻撃への備え、ソフトウェア及び関連機器の脆弱性への対応など、情報システムの安全性と信頼性を確保するための取組みが、企業にとって一層重要となっております。

当社グループでは、こうした顧客ニーズの変化を事業機会として捉えるとともに、情報セキュリティ上のリスクにも適切に対応するため、従来型の受託開発を中心とした事業から、当社グループの強みであるエンドユーザー企業との対話を通じて課題を発見し、AIを活用して解決策を実装する共創・課題解決型事業への転換を行っております。

具体的には、顔認証分野では、防衛・警備・防犯等の高セキュリティ分野において、当社提案の信頼性の高さが認められ、高付加価値モデルの需要が堅調となっております。また、防災・道路・インフラ保全領域では、新たに受注したAI機能を伴う総合防災情報システムの新基盤構築案件が本格化しております。加えて、国内公共インフラ施設の老朽化を背景としたドローン点検の実証検証や、設備の異常予兆監視におけるAIを活用した新たなサービスの開発に取り組んでおります。

セキュリティ面では、全社的な情報セキュリティ教育の実施や、セキュリティに関する専門資格の取得支援を通じて、情報セキュリティに関する知識及び対応力の向上に向けた人的投資を行っております。顧客向けには、本人確認における多要素認証やソフトウェアの品質・脆弱性の検証など、情報システムの安全性と信頼性を確保するための取組みを展開しております。

ランサムウェア対策やシャドーAI対策に関するコンサルティングについては、具体的な運用支援へとサービス領域を広げ、ランサムウェア訓練の実施や平時の監視体制強化などの検討を進めております。さらに、サプライチェーンにおけるセキュリティ対策への対応を見据え、組織ガバナンス体制の構築支援を当社の注力コンサルティング領域と位置付け、訴求しております。

業績面では、次世代AI分野を中心とする共創・課題解決型事業へのリソースシフトを進めたことにより収益性が改善し、セグメント損失は前年同期に比べ縮小いたしました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は1,053百万円（前年同中間期比0.3%増）となり、セグメント損失は82百万円（前年同中間期は93百万円の損失）となりました。

② エンターテインメント事業

エンターテインメント事業におきましては、主力公演として、東京及び京都で「レビュー春のおどり」を、九州最大級の演劇専用劇場「博多座」で「レビュー夏のおどり」をそれぞれ上演しました。博多座への出演は当劇団として初めてであり、「レビュー夏のおどり」は全公演が満員御礼となるなど、好評を博しました。

このほか、直木賞作家 今村翔吾氏の小説「幸村を討て」を初めて舞台化し、公演前にOSK Revue Café in Brooklyn Parlor OSAKAで上演した朗読劇との連動企画により、従来の観客層に加えて読書層の関心も集め、追加公演を含め満員御礼となりました。

さらに、仙台公演や、３回目となる苫小牧公演を開催し、地方におけるレビュー需要の開拓を進めるとともに、国内外の公演やイベントへの出演機会の拡大、オンライン配信による観劇機会の拡充を図りました。

業績面では、公演地域及び観劇機会の拡大等により、売上高は前年同期を上回りました。一方、主力公演の自主公演化並びに地方公演及び海外公演等への活動領域の拡大に伴い運営費用が増加したため、セグメント損失は前年同期に比べ拡大しました。

これらの結果、エンターテインメント事業の売上高は305百万円（前年同中間期比1.0%増）、セグメント損失は32百万円（前年同中間期は18百万円の損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は930百万円となり、前連結会計年度末に比べて117百万円減少しました。これは主として、仕掛品が26百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が112百万円、流動資産その他が32百万円それぞれ減少したことによります。

負債合計は285百万円となり、前連結会計年度末に比べて１百万円減少しました。これは主として、流動負債その他が13百万円増加した一方で、買掛金が12百万円減少したことによります。

純資産合計は644百万円となり、前連結会計年度末に比べて115百万円減少しました。これは、利益剰余金が115百万円減少したことによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月15日に公表した連結業績予想から変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,448	299,432
電子記録債権	7,449	7,030
売掛金及び契約資産	375,400	262,719
商品	5,571	3,683
仕掛品	2,301	29,176
貯蔵品	4,876	4,733
その他	103,218	70,922
流動資産合計	788,266	677,698
固定資産		
有形固定資産	64,364	62,211
無形固定資産	53,530	53,154
投資その他の資産	141,149	137,218
固定資産合計	259,044	252,584
資産合計	1,047,311	930,283
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,121	77,745
未払法人税等	13,784	11,190
その他	172,447	186,141
流動負債合計	276,352	275,077
固定負債		
退職給付に係る負債	4,529	4,252
資産除去債務	5,515	5,516
その他	834	739
固定負債合計	10,880	10,508
負債合計	287,232	285,586
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	229,198	229,198
利益剰余金	△675,459	△790,841
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	760,078	644,697
純資産合計	760,078	644,697
負債純資産合計	1,047,311	930,283

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	1,353,279	1,359,275
売上原価	1,046,068	1,024,716
売上総利益	307,210	334,558
販売費及び一般管理費	420,031	448,617
営業損失（△）	△112,820	△114,058
営業外収益		
受取利息	502	499
受取配当金	240	320
受取保険金	－	1,852
その他	2,523	1,245
営業外収益合計	3,266	3,917
営業外費用		
支払利息	55	51
支払保証料	300	300
消費税等差額	193	138
その他	0	10
営業外費用合計	550	501
経常損失（△）	△110,104	△110,642
特別損失		
固定資産除却損	214	290
特別損失合計	214	290
税金等調整前中間純損失（△）	△110,318	△110,932
法人税、住民税及び事業税	3,343	3,241
法人税等調整額	△3,464	1,208
法人税等合計	△120	4,449
中間純損失（△）	△110,198	△115,381
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△110,198	△115,381

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純損失（△）	△110,198	△115,381
中間包括利益	△110,198	△115,381
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△110,198	△115,381

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	ソリューション事業	エンターテインメント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,050,965	302,313	1,353,279	―	1,353,279
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,786	14,735	17,522	△17,522	―
計	1,053,752	317,048	1,370,801	△17,522	1,353,279
セグメント損失(△)	△93,426	△18,530	△111,957	△863	△112,820

（注）１．セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。
２．セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	ソリューション事業	エンターテインメント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,053,940	305,335	1,359,275	―	1,359,275
セグメント間の内部売上高又は振替高	603	20,948	21,551	△21,551	―
計	1,054,543	326,283	1,380,826	△21,551	1,359,275
セグメント損失(△)	△82,000	△32,123	△114,124	65	△114,058

（注）１．セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。
２．セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。